

春日井の魅力発見ウォーク

～内々神社・奥之院・内津展望台ガイドウォーク～
協力：春日井文化財ボランティアの会

2025
11/15
(土)

スタート・ゴール場所 あい農パーク春日井

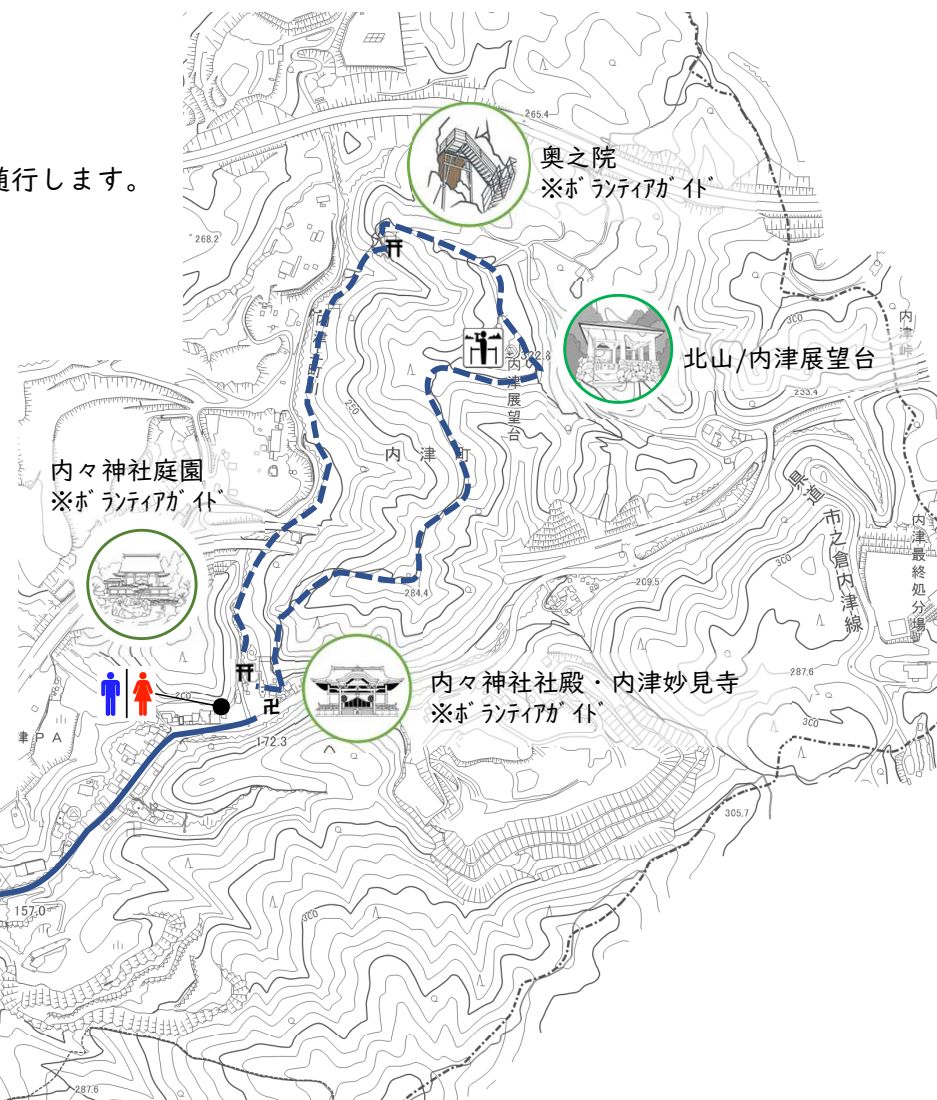
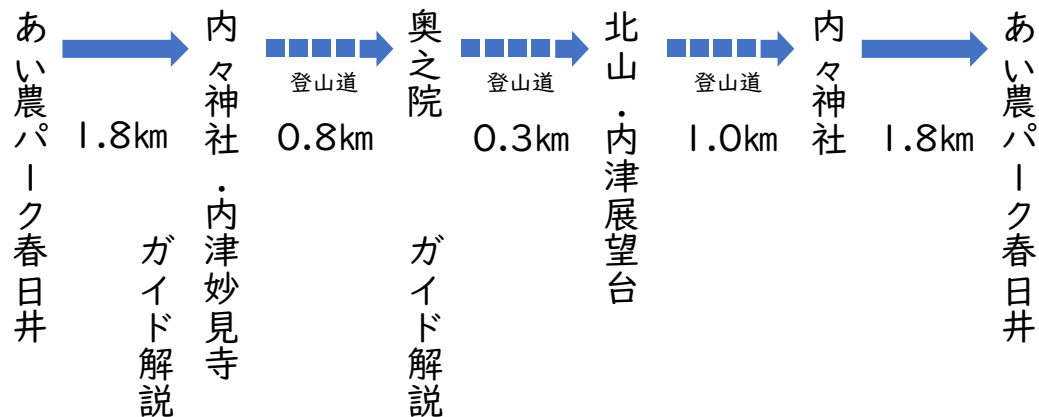
コース距離 5.7km

スタート時間 ①9時 ②9時30分

※10名程度のグループで出発し、職員が随行します。

所要時間 約3時間30分

ゴール受付時間 14時まで



スタート・ゴール
あい農パーク春日井
(カフェ コンタクト)

参加にあたっての注意

- ・自己の責任で健康を管理し、体調不良の場合は参加をご遠慮ください。
- ・体調の悪い方、倒れている方を見かけられた際は119番で救急車を呼んでください。
- ・歩道がない道路は、右側通行で歩き、交通安全には十分注意しましょう。
- ・ウォーキングの際は、周りの迷惑にならないようご配慮をお願いします。
- ・歩行中は禁煙です。タバコは喫煙所で吸いましょう。
- ・ごみは各自で持ち帰り、環境美化に努めましょう。
- ・コース外の山林や畑（私有地）などに入らないようにしましょう。

内々神社

名工の建てた社殿や美しい庭園が見どころ



【社殿】

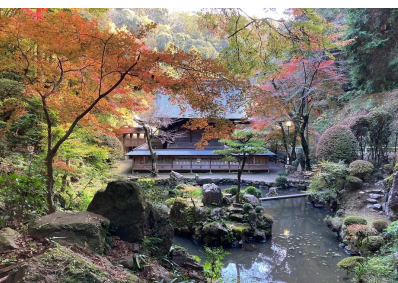
江戸末期・信州諏訪の名工立川一族により建てられたものです。構造は、本殿と拝殿を相の間に結ぶ権現造りで、社殿の彫刻も合わせ、近世を代表する神社建築といえます。

【庭園】

本殿背後にある林泉回遊式の庭園は、南北朝時代の名僧・夢窓国師の作庭といわれています。裏山の景色を借景として取り入れ、傾斜を利用し自然石が巧みに配置されています。

【内々神社の始まり】

日本武尊が東征の帰路、内津の地で義理の兄「建稲種命が駿河の海で水死した」との報告を受け、「うつつかな、うつつかな」と嘆いて、建稲種命の霊を祀ったのが始まりとされています。



【御舞台（おまいだい）】

神社の例祭に使用された山車で、社殿を建立した立川氏が制作したもの。例年5月の内津文化財祭で披露されます。屋根に取り付けられた懸魚の天女は、柔らかな微笑みはたいへん美しく印象的です。



内々神社/奥之院

岩の割れ目にある社殿

奥深い森の中に巨大な岩があり、鉄製の急な階段を上ると、岩の割れ目の中に社殿があります。かつては梯子で登ったとのこと。

三佛寺投入堂（鳥取県）を彷彿とさせる社殿の姿や、名駅ビル群が眺められる景色も一見の価値があります。



内津妙見寺

星の仏様・妙見菩薩をまつり、妙見さんと親しまれる



室町時代初期、密蔵院を開いた慈妙上人が内々神社の神宮寺として創建されました。

祭られる妙見菩薩のご神体は北斗七星で、古くから勝利をもたらす星として信仰されました。武将の崇高が厚く、豊臣秀吉の朝鮮出兵時に戦勝を祈願し、内々神社のご神木が軍船の帆柱として使用されました。

本堂は、信州諏訪の立川一族に学んだ野村作十郎らにより建てられました。

北山/内津展望台

東屋壁面には東海自然歩道の情報が掲載

北山山頂を示す金属表の四等三角点があり、展望台からは名古屋方面の景色を見ることができます。展望台内部の壁面には、山々の説明イラストや東海自然歩道の行程が描いてあります。



下街道と鶺鴒邸

かつて栄えた宿場町の面影をしのぶ建物

下街道は、ほぼ現在の県道内津勝川線にあたり、江戸時代には名古屋城下と中山道を結ぶ庶民の道としてにぎわいました。この街道に面する鶺鴒邸は、舎（やまきち）という屋号の商家で、大正の初めごろまで金勢丸（腹薬）、正生丸（解熱剤）の製造販売や、みそ・たまりをの醸造で栄えました。銅板の唐破風屋根と龍の彫物のある看板が2枚残されています。



カフェ コンタット (あい農パーク春日井内)

野菜や果物を多く使ったメニューはもちろん、園内の採れたて野菜や果物を使用しているメニューもあります。

